

10. 高品質果実安定生産を目指したナシ「^{あいかんすい}愛甘水」の予備枝育成法

1. 背景とねらい

ナシ「愛甘水」は、早生種の中では、大玉、高糖度であるが、その一方で、低収量と小玉果の食味不良など栽培上の課題が指摘されている。

本品種は、短果枝中心の樹形構成を行うことで高品質果実（Brix12%以上、果実重300g以上）を安定的に生産できることを明らかにしてきた。

ここでは、短果枝を安定して確保するための最適な予備枝育成技術を明らかにする。

2. 成果の内容

- 1) 予備枝は、主枝背面から発生した発育枝（以下、徒長枝）および背面以外から発生した発育枝を用いる（写真1，2）。
- 2) 徒長枝を用いた予備枝は、棚面の確保は早いものの、短果枝の維持率が低く（データ略）、胴枯性病害にかかりやすい（表1）。
- 3) 予備枝設定時の切返しの違いは、側枝の拡大に差を生じない。しかし、短果枝着生数および高品質果実生産は、予備枝設定時の切返し50%としたものが最も安定する（図1，表2）。
- 4) 以上のことから、「愛甘水」の側枝育成は、予備枝設定時における発育枝の切返し程度を50%とする。また、発育枝の発生が見られない場合の予備枝設定は、徒長枝を利用し臨時的な利用とする。

3. 普及上の留意点

- 1) 側枝は、2～3年結実させた後に、順次更新することが望ましい。
- 2) 予備枝に徒長枝を利用する場合は、設定時に枝上部1/2にノコギリ等で切れ目を加え、ビニルテープなどで切れ目を保護し、枝全体を支柱などで固定する。また、棚下の主枝から発生した場合には誘引角度を30度とし、棚面に近い場合には水平誘引とする。

（果樹研究部）

4. 具体的データ

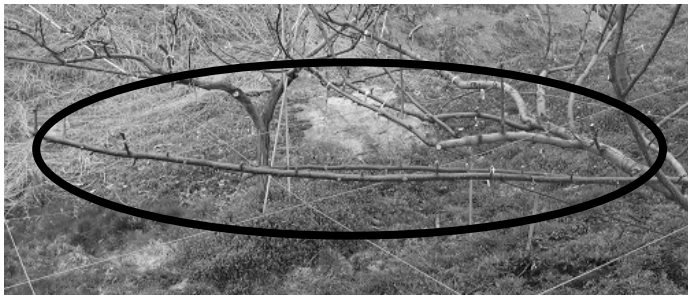


図1 徒長枝を用いた予備枝育成

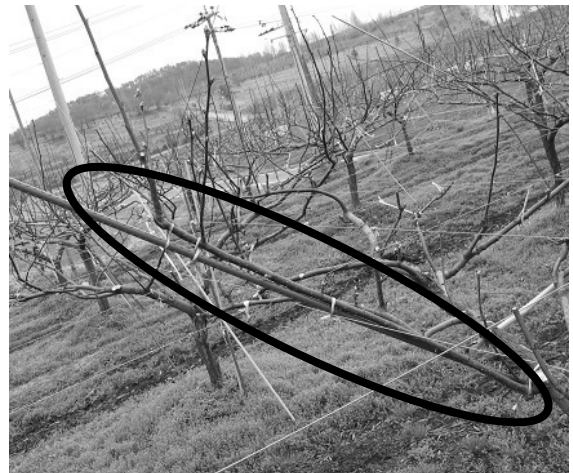


図2 発育枝を用いた予備枝育成

表1 ナシ「愛甘水」の側枝育成における徒長枝および発育枝の違いが枝齢別の胴枯性病害の発生に及ぼす影響
(予備枝設定4年目)

枝齢	胴枯性病害罹病率%	
	徒長枝	発育枝
4	58	2
3	9	23
2	9	7
1	6	0

²⁾ 各枝齢における胴枯性病害発生の有無を調査。
調査：2006年11月28日～12月14日。n=33～44。

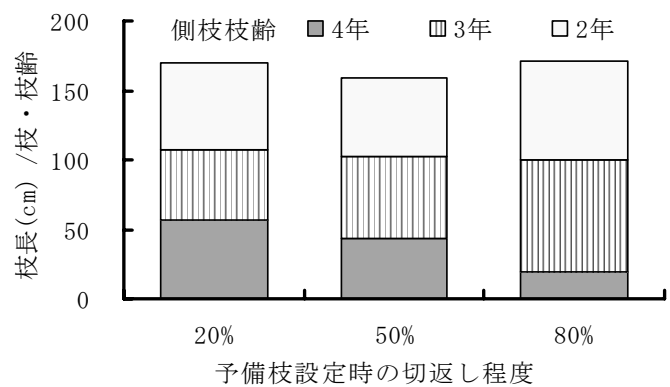


図3 ナシ「愛甘水」における予備枝設定時の切返し程度の違いが側枝拡大に及ぼす影響

調査：2006年11月28日～12月14日。n=7～17。

表2 ナシ「愛甘水」における発育枝を利用した予備枝設定時の切返し程度の違いが高品質果実生産および短果枝着生数に及ぼす影響

予備枝設定時 切返し程度%	高品質果実 割合% ²⁾	果実重300g以上 割合%	糖度12度以上 割合%	短果枝数/予備枝設定後年数			
				2年目	3年目	4年目	総計
20	27	73	27	6	6	10	22
50	47	71	53	4	9	11	24
80	19	63	25	1	9	11	21

²⁾ 果実重300g以上、糖度12度以上の果実。n=11～17。
予備枝の設定：2004年3月9日。